

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255
 ★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281
 会長 鈴木 勝 会長エレクト 守屋 紀忠 幹事 守屋 紀忠

第2252回 例会 平成25年10月3日 (晴) No.12
 ■司会:大藤 勉 ■点鐘:百瀬 恵美子 ■合唱:君が代・奉仕の理想

◇プログラム ・10月10日：片野一雄さん ・10月17日：斎藤正淳さん ・10月26.27日：地区大会

◇出席報告	例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率	◇欠席者(7名)
	2252回	19(15)	8	53.33%	—	—	小林、宮澤、原卓、太田及川、石山、原千明さん
	2250回	19(15)	12	80.00%	13	86.67%	◇メイクアップ(1名)宮澤さん

◇ゲスト



米山奨学生 王 鄢冬 (オウ タントウ) さん (東海大学院文学研究科、メディア専攻修士2年生) =卓話講師

地区米山記念奨学会副委員長 澤田君雄さん (箱根RC, 次年度第8Gガバナー補佐)



◇ひとこと

オランダ軍医ポンペ氏の功績：幕末の長崎で西洋医学を講じたオランダ軍医のポンペ氏が日本に五年間滞在中に扱った日本人の患者は一万三

千六百名で、最も多かった病名は肺病(労咳、結核)、気管支疾患、心臓で、眼病も多くまた梅毒が国病のように浸透していたし又脚気で命を落とす人もいたという。インフルエンザや麻疹、コレラも加わった。旧幕府時代には江戸中に一万二、三千人余の医者があったが、当時では二千人に足らずの人数しかいなかったという。その時代にオランダの軍医さんの尽くされた厚意に感謝！！

◇百瀬 恵美子さん



◇おめでとうございます



結婚記念日祝 守屋 紀忠さん (10/3)

昭和44年に結婚しました。今年は昭和で言えば88年で丁度昭和の半分を過ごした事になります。これからも仲良く元気で過ごしたい。

◇会長報告

今日は！今日は風邪を引いてしまい、がらがら声で失礼します。守屋さん結婚記念日おめでとうございます。

明5日～6日小諸RCの50

◇百瀬 恵美子会長代理



周年記念式典に出席します。5名で行く予定でしたが片野さんが体調不良で急に欠席となりましたので、今からでよいので、何方か出席出来る方は手を上げて下さい。

箱根RCの澤田さん、米山奨学生の王 鄢冬さんようこそ、米山月間の卓話宜しくお願い致します。

例回終了後理事会を開催します。

◇幹事報告

回覧：例会変更 平塚RC
平塚西RC
インターアクト通信
配布：ガバナー月信10月号

守屋 紀忠幹事



◇委員会報告

☆スマイルボックス

・澤田君雄さん：
(箱根RC)

・百瀬 恵美子さん：守屋さん、御結婚記念日おめでとうございます。王 タントウさん、ようこそ。スピーチよろしくおねがいします。

・守屋 紀忠さん：結婚祝のお花をありがとうございます。

・河本 親秀さん：^{おうたんとう}・王 鄢冬さん、澤田さんようこそいらっしゃいました。守屋さん、結婚記念日おめでとうございます。

・笹尾 政儀さん：守屋さんの結婚記念日おめでとう。結婚暦は何年になりますか？今でも奥さん^{おうたんとう}を愛して居ますか？王 鄢冬さんの卓話楽しみにして居ます。

・片野 一雄さん：このところ、少々、体調不良で皆様にごめいわくをおかけし、申訳なく思っております。全快をめざし頑張っております。

・井上 浩吉さん：守屋さんの結婚記念日おめでとうございます。米山学友 王さんようこそ。

井上 浩吉さん



◇卓話

◆◆◆ロータリー米山月間卓話◆◆◆

米山奨学生 王 鄢冬



2012年度ロータリー米山奨学生の王 鄢冬オウ タントウと申します。今年の10月から東海大学文学研究科メディア専攻修士2年目に入りました。今年からロータリー米山学友会の会計を担当させて頂き、一年一度の卓話スピーチにまいりました。よろしくお願ひ申し上げます。

私は中国出身で来日してあつという間にもう6年目になりました。今振り返ってみると、多くの出会いや経験をすることができ、学業だけではなく、価値観や文化を学ぶこともできました。日本に来て良かったと心から実感しています。

私にとって、来日のきっかけはアニメです。日本と言えば、ジブリアニメのトトロの世界だというイメージが強く、日本は、神秘的な森が広がる世界であると思っていました。このように、18歳当時の私はただアニメが大好きという純粋な理由で、日本というアニメ大国に来ました。

最初はテレビに上映するアニメだけですが、どんなほかのバラエティー番組も興味を持ちはじめ、政府からコントロールしている母国のテレビ番組に比べたら、より随分豊富でおもしろいことに気づきまして、ぜひ日本のバラエティー番組や広告のやり方などを学びたいと思いました。そのため、大学は東海大学の広報メディア専攻を履修して来ました。

母国中国政治にコントロールされているマスコミは日本と両国の関係にも大きく影響しています。政治は政治、国民は国民、私たち一人ひとりの交流を深め、理解するのは大切だと思います。

そして今日は情報発信とメディアについて、ちょっと自分の考えを話させて頂きたいと思います。

情報というのは様々な形があります。そして、メ

ディアを通じて情報を人々にとどけるように広げます。そこで、メディア機能の差異によって、受容の効果も異なります。メディアを活用して、人々が情報を受け入れるその受容の過程は主に七つのフェーズがあると考えています。LAISLA+Sの形で行動変容をうながすメディアの活用とまとめています。

L=Listen=傾聴

A=Attention=報の担当者が情報を認知し

I=Interest=関心を抱き

S=Search=詳しい情報を探索し

L=Landing=着地点整備。

調べてくれた人にちゃんとした情報の提供、便利なリング繋がりを用意する事

A=Action=その感想を発信し、他者と共有する事
+S=Share=意識・行動の変化、そして共有する事

技術の発展にしたがって、メディアの機能が大きく変化しています。

ファッションを一つの情報として見られるなれば、1970年代～1980年代、海外ファッションの日本国内受容に大きく貢献した「ファッションメディア＝雑誌メディア」時代でした。一方、マルチメディア時代である現代には、ファッションとメディアの間に様々な変化が起こり、そこから今後の多様な関係性を築いていく可能性がある。



70年代～80年代ではファッション情報に限らず、マスメディアの全盛時代であったが、2000年頃からデジタル時代に入り、ウェブメディア、SNSも様々なファッション情報を流し、マルチメディア状況は進展しています。インターネット、スマートフォンなど新たな技術はファッション情報の伝え方も大きく変化させましたし、ファッションとメディアの関係も新たな段階に入ったと言えます。雑誌のファッションに対する相対的優位性は変わらないでしょうか、雑誌メディア、ウェブそしてパーソナルコミュニケーションはどのような連携で一番ファッション情報を伝えられるかを新しいメディア時代のファッションとの関係予想図となるはずでしょう。

ところで、中国は日本の経済を追いかけている側

面があります。

一方で、日本と同じスピードでインターネット時代になっているという見方もできます。中国のこれからのメディアと文化の関係を考えるために、日本の情報発信やメディアを参考しなければならないと考えました。

新しいメディアと言ったら、SNSのことを注目しなければならない、

最近日本では様々なSNSが普及していますが、その中で私が特に注目したのが、アメリカ発のソーシャルメディアネットワークのFACEBOOKです。フェイスブックは日本市場ではサービス開始が遅かったため、当初利用者が少なかったのですが、最近急速に登録者数が増え、日本国内で1,000万人を突破し、さらに増大しつづけています。しかし現状としては、自分もそうなんですけれども、ほぼ毎日FBをチェックしていても、広告にあまり目を向けることがありません。今Facebookに見られる広告は、背景と同化してしまっているように思います。つまり、広告に目を向けて、それがつまらないかどうか判断する以前の問題なのです。

Facebookの特性として、多くの人々が、それぞれの興味を簡単に共有することができ、なおかつ、その情報をだれか自分の知り合いが発信しているということで、より興味を呼び起こすことができ、親近感を持つこともできるかと思います。この特性を広告に利用しない手はありません。

もちろん他にも、SNSが持つ特性は多くあります。多くのSNSが国際的に気軽に繋がれるという特徴をもっていますし、SNSによって利用者ももちろん異なります。SNSというニューメディアがもつ、これらの特徴のひとつひとつがどんな影響を与えるのか、そして広告はそれにどう対応していくべきなのか、考えていきたいと思っています。

日本のマスコミだけではなく、東海大学には、外国のマスコミ関係者との交流チャンスはたくさんありました。例えば、2011年に学科のメンバーと一緒にマレーシアを訪問しました。言葉もあまり通じなく、文化も随分違うことで、最初の交流は順調に進みませんでした。しかし、言葉は通じなくても心は通じ合うことで、身振り手振りをすることで、お互いによく交流ができました。この経験を通して、異文化交流は必ずしも言葉だけではなく、心のコミュニケーションが一番大切ではないかと考えました。しかし、近年、マスコミで母国の中国と日本の国交問題の報道は少なくないです。これらの報道を見て、私はとても戸惑いました。

こういうふうに関心を持っている私は特にロータリー米山奨学会の方々と出会うことによって、親善交流という精神への理解はますます深めて来ました。ロータリー米山奨学生として選ばれて頂いて、私は国と国の架け橋として身を着けることの重要さを感じました。ロータリー米山記念奨学会との出会いが私の考え方や生き方に大きな影響を与えました。

去年ロータリー関係で大磯小学校の中国講師を担任させて頂き、日本人の子供たちに母国の文化や言葉を伝えることが出来ました。小学生たちと一緒に笑いながら、全く距離感を感じなくて、子供たちの熱心の様子と素直さに感動しました。とても有意義な経験を積みました。このような様々な国の方と交流することの楽しさを感激し、さらに、東海大学の海外研修航海にもチャレンジしてきました。41日間に及ぶ航海活動に参加しました。活動中は船内で水が足りなくなったり体調を崩す仲間が多数出たりと、予期せぬ問題が複数生じましたが、定期的に班長同士や班内で会議を行うと共に、互いに協力しあうことでこうした困難を乗り越えることが出来ました。その他にも、船上での講義やサークル活動、スポーツ大会、寄港地での調査発表など様々な活動を行うなどし、充実した船上生活を送ることが出来ただけでなく、仲間と協力することの重要さや面白さ、また難しさを、身を以て味わうことが出来ました。更には、寄港地で、言葉の通じない現地の学生とフットサル大会や食事会を行い、身振り手振りだけでも意思疎通をはかる経験もしました。以上のことを通して、共通の目的を持った仲間と、共に学び、考えることの重要さを知ることが出来ました。

ロータリー米山奨学会のおかげ様で心豊かな留学生活を贈りました。心から皆さんに感謝しております。この組織を通してさらに国際交流に理解を深めました今私の中では交流の信念というのは、「おもてなし」から「ありがとう」です。ということ、一期一会の気持ちと感謝の気持ちということです。日本で学んだ言葉の中に一番印象に残っているのは“一期一会”という言葉です。それはお茶会からできた言葉です。お茶会では、すべてのお客様を一生に一度しか会えないものとして心をこめて接しなさいということです。「一期一会と感謝」この2つの気持ちを持って、人と接することはとても重要であると思います。ロータリアンと奨学生の間でも、国と国の間でも、民族と民族間でも「一期一会の気持ちと感謝の気持ち」が一番大切ではないかと考えています。

日本の社会ではこの先またたくさんのチャンスや

学ぶことがあります。いま修士でメディア研究をしている私は卒業してから、今まで学生として学んだことを忘れず、いよいよ社会人になり、どんな困難があっても、乗り越えて、活躍できるように一生懸命頑張っていきたいと思っています。

以上私のスピーチを終わりました。
ご清聴ありがとうございます。

後記：

卓話後、付き添いでお出で下さった澤田さんのご挨拶の後、王さんと会員の間で質疑があり、現在中国と日本の関係が緊張している中、政府/国家と国民とは同一ではない、先入観無しにお互い心を開いて会って話す事が大事と思うとの王さんのお話に納得致しました。

以上



原千明 S A A が欠席のため
新会員の大藤勉さんが
代理で S A A を務めました。